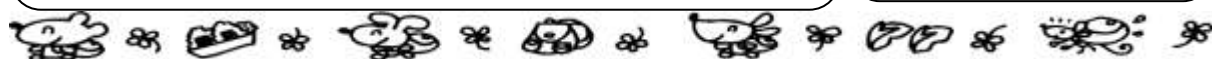


城っ子の未来を拓く

愛南町立城辺小学校

防災教育だより

2026. 5.1 NO.1



緑鮮やかなうるわしい季節となりました。皆様方におかれましては、ますます御健勝のことと存じます。平素から本校の教育に対しまして、温かい御支援、御協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、城辺小学校は、今年度、愛南町防災教育研究指定校となりました。今、子どもたちと一緒に、近い将来、絶対来ると予想されている南海トラフ地震に備えての防災教育に力を入れているところですよ。

【第1回校内研修会】



4月22日（水）に教員研修を行いました。東北の被災地視察で学んだことを共有しました。語り部の方々の生の話を聞いたり、遺構を直接見たりして学んだことを皆様にもお伝えします。

1、「ここなら安全だ」という考え方をしない

杉の下地区では、指定避難所に避難したにもかかわらず、予想を上回る津波が襲い、多くの尊い命が失われました。行政に指定されている避難所であっても、必ずしも安全ではないということを学びました。



第1回校内研修会の様子

2、自然災害は予想を簡単に上回る

戸倉小学校では、学校で指定されていた避難場所に避難したものの、地震発生から約1時間後、その場所にも津波が到達しました。また、気仙沼向洋高校では、校舎4階の高さまで津波が押し寄せました。状況に応じて避難場所や避難方法を柔軟に判断することの重要性が分かりました。



校舎4階まで津波が来た
気仙沼向洋高校

3、救えなかった命は簡単に救えた命だった

大川小学校では、多くの尊い命が奪われました。しかし、すぐ近くの山に避難していれば助かった可能性があるとも言われています。なぜ、その行動がとれなかったのでしょうか。御家庭で、避難場所や避難方法について話し合われていますか。あらかじめ決めておくことが、大切な備えの一つです。



ガラス張りの渡り廊下大川小学校

4、日常生活の中に防災教育を取り入れる

門脇小学校では、津波火災により多くの被害がありました。当時の校長先生は、防災教育として「①廊下は右側を歩く ②集会は静かにすばやく集合する ③学びの集団を作る」の3つを大切にされていました。どれも日常生活の中では当たり前のことですが、こうした積み重ねが、いざという時に自分の命を守る行動につながる事が分かりました。



石巻市被災地遺構門脇小学校